

# パネルディスカッション 東部地域のまちの将来像を語ろう (第3回東部まちづくり戦略会議)



## - 実施報告書（議事録） -

### 概要

#### 日時・場所

令和2年8月8日(土) 13時30分から15時30分  
東部市民センター 講堂



## パネリスト【委員】（名簿順）

山下史守朗 小牧市長（本部長）  
増田 昇 大阪府立大学名誉教授（リモート参加）  
古池 嘉和 名古屋学院大学教授  
大塚 俊幸 中部大学教授  
和田 貴充 空き家活用株式会社代表取締役 CEO（リモート参加）  
坪井 和巳 小牧商工会議所専務理事  
尾関 雅俊 こまき新産業振興センターセンター長  
小柳 松夫 区長会篠岡地区会長  
  
ファシリテーター 秦野 利基

## 事務局

江口 秀和 副市長  
鵜飼 達市 都市政策部長  
水野 隆 都市政策部次長  
平野 淳也 都市政策部東部まちづくり推進室長  
横井 久志 都市政策部東部まちづくり推進室 係長  
林 亮佑 都市政策部東部まちづくり推進室 主事  
長谷川 優 都市政策部東部まちづくり推進室 主事  
桂川 隼斗 都市政策部東部まちづくり推進室 技師

参加人数（傍聴人数） 52名



## 市長あいさつ

みなさん、こんにちは。本日はご多用の中、お集まりいただきましたこと、まずもって感謝申し上げます。

パネルディスカッション 東部地域のまちの将来像を語ろうということでありまして、今、東部まちづくり戦略会議を開催しているところであります。これまでの2回は市役所で開催してまいりました。本日は東部のお地元であります東部市民センターにおきまして、御地元のみなさんにもご参加いただき、意見交換を含めたパネルディスカッションという形式で開催させていただくこととなりました。



新型コロナウイルスの影響のなか、入場時には検温等のご協力をいただきまして、この点についてもお礼申し上げます。

また、本日は直前に愛知県の独自の緊急事態宣言が発令されたところでありまして、この会の開催についても、悩みましたが、万全な感染防止対策を施したうえで、開催することと判断させていただきました。

みなさまには、この点についてもご協力とご理解をいただきたいと思いますとおります。

また、2名のパネリストには遠隔地において、リモートによる参加をしていただくこととなりました。小牧市では、初めてこのような機器を使用しているパネルディスカッションでありまして、手探りのなか進めております。

スムーズに進行できるように努力いたしますが、少し戸惑うところ等ありましたら、ご容赦いただきたいと思います。

さて、全国的に人口減少社会・超高齢化社会と危惧されておりますが、本市においても、例外でなく平成27年を人口ピークに人口が微減しており、特に人口減少が著しい地域が東部地域になります。高齢化率については、北里地域が高かった状況ではありますが、これから東部地域が追い抜き、さらに早いスピードで進行していくが推測されます。そのなかでも、

特に昭和の終わりから平成のはじめにかけて入居が開始し、約40年が経過した桃花台ニュータウンの人口減少・高齢化の進行が著しい状況であります。これは、ニュータウンの宿命というところもあるかと思いますが、一時に同世代の方が同時に入居され、同じように歳を重ね、お子様方が外に出てかれ、そのような課題が顕著になってきている状況であります。

そのような背景のなか、東部地域のまちづくり専門部署を昨年4月に設立させていただきました。東部地域のまちづくりについて、まちの将来像及びその実現のための取組を明確にする東部振興構想の策定方針を定めるため、「東部まちづくり戦略会議」を設置し、先ほども申し上げましたとおり、これまで2回、公開会議として開催してまいりました。

これまでの2回の会議におきまして、本日パネリストとして参加していただいております、委員のみなさまから、貴重なご示唆、ご意見をいただいております。それをみなさまにも、少しご報告申し上げながら、さらなる議論を深めていきたいと考えております。

私もですが、この東部の問題については、非常に困難な問題を何と解決していかないという意識のなかで、市長として考えていたところですが、戦略会議のなかで専門家の委員のみなさまに様々なご意見いただくなかで、明るいイメージに変わりました。東部地域にはいろいろな魅力があるわけでありまして。みなさんの力を結集すれば、課題解決しなければならないというよりも、明るい希望が満ち溢れた東部地域できるのではないかというご意見をたくさん頂戴しております。ぜひ、みなさんにも、そんなことを感じられるような議論ができればと思っております。

短い時間ではありますが、有意義な時間とさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

## これまでの東部まちづくり戦略会議の概要

【事務局】（参考資料1を用いて説明）

それでは、『これまでの東部まちづくり戦略会議の概要』について説明させていただきます。

私、東部まちづくり推進室長の平野と申します。よろしく申し上げます。着座にて説明させていただきます。

お手元の参考資料 1 をご覧ください。

本日は、時間の都合によりポイントを絞って説明させていただきます。  
前のスクリーンに、同じものを映しますので、見やすい方をご覧ください  
ければと思います。

なお、資料には、スライド番号が右下に記載させていただいております。  
「東部まちづくり戦略会議の概要」であります。冒頭の市長のあいさつ  
にもありましたので、割愛させていただきます。

スライド 5、「市の概要」であります。全国的に問題とされている人口  
減少や高齢化における本市の状況について説明させていただきます。

スライド 8、市内 6 地区の「人口増減比率」であります。

2010 年（平成 22 年）を「100」とした折れ線グラフとなっており、東  
部地域（篠岡地区）の人口減少が進行しているのがわかります。

スライド 9、「高齢化率」は、全体的に右肩上がりですが、その中でも東  
部地域（篠岡地区）の傾きが急であり、高齢化の進展が急速に進んでいる  
ことがわかります。

少し飛びまして、スライド 20、「東部地域の人口推計」であります。

既存集落の推計グラフとなりますが、平成 27 年と令和 27 年とを比較す  
ると人口は 4,180 人減少し 5,729 人、高齢化率は 14.3 ポイント上昇し  
46.3%となるとされています。

スライド 21、桃花台の人口推計も同様に比較しますと、人口は 7,670 人  
減少し 16,268 人、高齢化率は 35.7 ポイント上昇し 56.8%となるとさ  
れています。

本市では、平成 27 年をピークに人口が減りはじめ、特に人口減少が著  
しい地域が東部地域であり、なかでも、桃花台ニュータウンの人口減少・  
高齢化の進行が著しいことを改めてご理解いただけたかと思えます。

スライド 22 からは、各種資料となっておりますので、後程、ご覧いた  
だきたいと思えます。

飛びまして、スライド 41、「これまでの東部まちづくり戦略会議のポイ  
ント」であります。

スライド 42・43 をご覧ください。これまで 2 回開催し、第 1 回を昨  
年 11 月に第 2 回を本年 2 月に開催しました。

次に、主な発言内容について、委員ごとにご紹介させていただきます。

増田委員からは、「桃花台 NT」、「既存集落」、「産業」の 3 つのコミュニ  
ティの連携融合。

地域コミュニティと居住魅力、生活課題と居住魅力。

「ゲストからホスト」への意識の転換。

古池委員からは、既存集落が保有する貴重な価値と桃花台との連携融合。

3つのコミュニティが持っている既存資源をシェアできる仕組みの構築。

大塚委員からは、「企業誘致」から「起業支援」への転換。

長期ビジョンと短期ビジョンの双方を考える。

和田委員からは、起業や研究等にチャレンジできる仕組みの構築。

東部地域のセールスポイントを市内外にブランディングする。

坪井委員からは、住宅問題だけではなく、企業誘致など産業振興も必要。

ハイウェイオアシス、スマート IC の建設に併せ篠岡地区の特産品等  
を売ることによって活性化を図る。

尾関委員からは、まちに若者を呼び戻し、定着させるには、産業振興が  
不可欠である。

自動運転システム、行政・医療サービスのデジタル化等「新しいコンセ  
プト」の街づくりを目指し、スマートシティのさまざまな実証実験への参  
加を検討することが新産業の起爆剤になる。

高齢者対応に加え、世代を超えた融和を促すため、日本版 CCRC の整備  
を検討する。

小柳委員からは、高齢化の進行が早く、5年先のことを今、真剣に考え  
る必要がある。Uターンする子どもが少ない。

最後、山下本部長からは、

「戻ってきたいと思われるまち」と「新たに來たいと思われるまち」の  
両面で考える必要がある。

新たに関係する人たちを受け入れる文化的なコミュニティの育成  
などのご発言をいただきました。

なお、参考資料2で、主な発言内容をまとめておりますので、後程、ご  
覧いただきたいと思います。

スライド53をご覧ください。

戦略会議における各委員からの発言をもとに、これからの東部まちづく  
りを考えていく上での基本的な考え方として「5つのポイント」をまとめ  
ました。

Point1 一体性（東部地域一体でのまちづくり）

Point2 自立性（地域住民による自立したまちづくり）

Point3 活用性（地域資源を活用したまちづくり）

Point4 柔軟性・可変性（柔軟性・可変性を持ったまちづくり）

Point5 将来性（チャレンジをサポートするまちづくり）

この5つについて順に説明させていただきます。

Point1 一体性であります。

「既存集落」「桃花台 NT」「産業（企業）」の3つのコミュニティが現存しているなかで、これらをどうやって結び付けていくかが、ポイントであると考えております。

お互いに欠けている部分を融合させ、補い合うことが魅力になり、さらには、向上につながるのではないかと考えています。

Point2 自立性であります。

地域住民が何か取組をスタートしてから一定期間経過した後は、行政支援から自立する、いわゆる「経営の視点を持った取組」が必要ではないかと考えております。

先進市事例として、大阪府堺市にある泉北 NT における『泉北をつむぐまちとわたしのプロジェクト』を挙げさせていただきました。

このプロジェクトは、助成金を受けず、活動されています。

助成金がなければ続かない活動では意味がないということで、自ら活動資金を生み出しているという事例であります。

Point3 活用性であります。

今ある生活課題を克服して、新たなまちの魅力に転換する意識を醸成することで、課題解決につなげられないかという視点に立った考えであります。

先進市事例として、先程と同じく、泉北 NT における『先進的住戸リノベーション推進モデル事業』の『ニコイチ』というものであります。

共同住宅の住戸と住戸の境にある壁（隔壁）を撤去し、隣り合う1戸当たり45平方メートルの住戸を『ニコイチ』とすることで、1戸当たり90平方メートルの住戸に改修したものであります。

元々狭かった住戸を組み合わせることで広い住戸にすることにより、若年夫婦や子育て層の暮らしに適した住宅を供給することができたものであります。

Point4 柔軟性・可変性であります。

まちづくりを進めていくうえで、長期的なビジョンを描きながら課題に対応していく必要がありますが、それと同時に高齢化への対応や、コミュニティの存続など目の前にある短期的な課題にも対応することも重要であります。

時代の流れやその時々の問題や課題に対して、柔軟性や可変性を持って対応する必要があると考えております。

Point5 将来性 であります。

よりよいまちとしていくためには、市民や関係する人たち、それぞれが抱いている夢への挑戦を応援する仕組みや、将来的に魅力あるまちとなるような仕組みを構築することが必要と考えております。

「居住者にとって不足している部分」と「新たに挑戦をしたい若年層（若年世代）」などをマッチングすることで課題解決につながるのではないかと考えています。

さらには、「誰もが挑戦できる仕組み」というものができれば、それが新たなまちの魅力につながっていくのではないかと考えております。

以上、簡単ではございますが「これまでの東部まちづくり戦略会議の概要」の説明となります。

## パネルディスカッション

### ▶パネリストによる発言

【小柳委員】

只今、ご紹介いただきましたとおり、篠岡地区、東部地域の区長会の会長という立場で本日、参加させていただいております。

私は昭和 55 年の 12 月に、桃花台に入居をさせていただきました。当時は 1,000 人程度の人口であり、この先、どうなるかという思いがありましたが、県の職員、関係者の熱意により、着々と計画が進んでいきました。

そんななか、折角、新たにまちを創っていくのであれば、今後何が必要なかということを考えました。40 年の月日が経過したわけではありますが、当時を振り返ると、基本的には隣近所も顔見知りでない状況でありました。したがって、このまちの発展には、交流の場が重要であるという考えとなり、ここのこども達を含めた地域のみなさんの集まれる場、いきいきした場を作ろうということで、桃花台まつりを開催することとなり、これまで毎年のように開催してきました。

それからもうひとつ、大事なことは、桃花台ニュータウンができたのは、この地域の篠岡地区のみなさまの貴重な土地を提供していただいたことで、





入居できたという気持ちの面であります。このような感謝の気持ちがなければ、地域のみなさんとも交流ができないと思っております。そのため、できるだけ多くの機会でのような発言をしてきました。

まちの経過と同時に、自分自身も成長させていただいたという気持ちであります。そんなことで、このまちを愛するが故に何とか、課題・問題等を打破しながら、さらに魅力あるまちづくりをしていく必要があるという思いがあります。

桃花台だけでなく、篠岡地区全体が一体となり、どのように地域発展させるか、どのように地域に活力を持たせるか、どのように魅力を持たせるかということが極めて重要であると思っております。

現状について、ご紹介すると、篠岡地区の区長会は、組織体制がしっかりとしており、桃花台の区長のみではなく、篠岡地区全体の区長で交流をさせていただいております。また、様々なテーマに沿ってまちづくりの調査研究や情報交換を、篠岡地区全体で行っております。

それから、小牧市では、地域協議会という小学校区単位のコミュニティの設立を進めており、篠岡地区では5つの小学校区すべてが立ち上がったところです。そのうち、篠岡小学校、光ヶ丘小学校、大城小学校は従来の篠岡地区の人達と学区編成が同じでございます。従来から住まわれる地域の先輩と桃花台に住む人達が関わるコミュニティの場となっています。

また、桃花台に入居した人が従来から住まわれる篠岡地区の方がお持ちの休耕地をお借りし、家庭菜園等を行うような交流も見受けられます。

また、イベントとして、先ほど少しご紹介しました桃花台まつりでは、区長を中心とした実行委員会がイベントの運営を行っておりますが、桃花台地区のみならず、従来からの地域の篠岡地区の区長にも応援をいただき、また、3つの中学校の生徒がボランティアとして、様々な協力をいただいている状況であります。その桃花台まつりでは、多くの人にお越しいただくのですが、こどもも多くお見えになり、本当に少子化なのかと疑うくらいの状況であります。残念ながら、今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、中止になってしまいました。

このような状況であり、地域交流は進んでいるという想いです。

また桃花台区長会は、環境保全に力を入れており、ペットを飼うマナーの在り方や、空き缶などの資源回収を平成8年より開始し、これは他地域より先駆けてはじめ、今日に至る状況です。このように地域交流・地域美化活動を積極的に進めている状況です。

桃花台地区は高齢化と言いますが、新聞記事にありました。全国では50万人ほど人口が減少しており、人口増加しているのは、東京都、神奈川県、沖縄県だけであるとのことです。実際に人口減少が進んでいるということでもあります。我々もこのことを避けて通れない。どうしていくのかをしっかりと考えていくことが大事であります。

篠岡地区の高齢化が3割弱であります。桃花台のなかでも桃ヶ丘1丁目や2丁目では50%以上です。とんでもない数値であります。

今後、高齢化は避けられないので、高齢化であっても、社会貢献できるような健康的な地域を作り上げていくことが必要だと考えています。このような地域になっていくことが私の願いであります。

#### 【坪井委員】

小牧商工会議所の坪井でございます。小牧市と言いますと産業のまちというイメージが強いと思います。東名・名神高速道路、中央自動車道が立地し、物流の拠点というイメージもあると思います。

東部地域に限ると面積は小牧市の半分、人口は25%ということになります。小牧商工会議所の会員は3,353社あります。そのうち東部地域の会員は全体の15%の500社という状況です。また、会員のうち、製造業が23%であります。東部地域では500社のうち、28%が製造業である状況です。



冒頭、事務局よりこの地域の人口減少や、20・30歳代の転出が多い状況という説明がありましたが、問題は桃花台の新交通が廃止され、交通手段が自動車やバスだけということにあると思います。また、東部地域の方、特に名古屋駅への通勤や通学の方だと思っておりますが、鉄道を使用する場合、小牧駅や味岡駅に行くよりも春日井駅に行く方が多いようです。

もちろん、働く場所が近くにあれば、それに越したことはないと思います。したがって東部地域の発展を考えると、この地域で働ける場所ということが重要だと思います。

今、働き方改革、新型コロナウイルスの影響で、テレワークが推奨されていますが、現実的にはテレワークや在宅勤務は制限があるように感じています。

事務の仕事やソフト関係の仕事であれば、テレワークは可能と感じますが、すべての職種では困難であると思います。

雇用の人数から見ると一番多い従業者数は、製造業となります。そういったものづくりの仕事は、現場に集まり仕事をするということが必要となります。

小牧市には、小牧企業新展開プログラムがあり、中小企業が設備投資する時や起業・創業する時の補助金など支援が多くあります。

しかし実際にはなかなか、起業となると簡単なことではないのが現実です。東部地域には、開発されていない土地がたくさんございます。小牧市に

は、そのような土地に企業誘致をしていただき、住民に働く場所を提供していただくこと期待しています。

また、2022年に市民四季の森の隣にハイウェイオアシス、スマートICの建設計画もあり、それは交通の利便性にも寄与するものであります。

ハイウェイオアシスが完成すると、そこで雇用も創出され、またサービスエリアでは、小牧市の特産品、例えば名古屋コーチン、桃、ぶどうなどの物産の販売ができるようになります。

商工会議所としましては、ハイウェイオアシスが、この東部地域の発展の起爆剤になることを期待しています。ハイウェイオアシスが出来ると周辺道路の渋滞等が予想されますので、小牧市には周辺道路の整備もお願いしたいと思います。東部地域・桃花台の人口減少の歯止めかけ、東部地域の発展のためには、企業誘致に力を入れていただき、働く場を提供していただくことが必要と思います。

人が集まれば、飲食店やサービス業も増え、生活環境の向上にもつながっていきます。

そのためにも、ハイウェイオアシスの建設へのご支援をいただきたいと考えております。

#### 【尾関委員】

こんにちは。こまき新産業振興センターの尾関でございます。よろしくお願いいたします。私はこれまでの戦略会議で発言してまいりました産業振興や、スマートシティなどの観点で発表したいと思います。

まず、最初にスーパーシティというお話ですが、今年の通常国会でスーパーシティ法案が成立しまして、この秋から各自治体の公募が始まるということでございます。

スーパーシティとは、みなさまご存じだと思いますが、ビッグデータや人口知能を活用しまして、自動運転や、遠隔での医療、教育、行政サービスなどを提供するという、人の暮らしを大きく変える未来都市を創ろうという構想であります。

具体例ではありますが、トヨタ自動車は今年1月に静岡県裾野市の工場跡地に自動運転やAIなどの先端技術を活用した実験都市をつくるという発表をしました。

こちらのスライドは上空から見た図です。建物にはソーラーパネルが設置され、その間を自動運転の自動車が縦横無尽に走っており、人も往来しています。上空にはドローンも飛んでおり、先進的な技術が活用されてい



る状況です。

一方で、人とのコミュニケーションですが、各種イベントなどもこの都市で盛んに行われます。

こちらは家の中のイメージですが、ロボットが家事等を手伝い、また行政、医療、教育機関とオンラインでつながっており、在宅で様々なサービスが受けられます。

こうしたまちづくりをすることで、市内の企業が新しい産業、新しい技術の導入にも積極的になると思われます。また、外部から、新しい企業が参入してくるということで、若者の就業機会が生まれることも考えられます。

それから、桃花台の問題、高齢化の進展という話もありますが、日本版の CCRC というのも参考になると思っております。CCRC は高齢者を継続的にケアしていくコミュニティということで、アメリカで始まりました。日本でも数々の事例が出ております。このコミュニティは、高齢者が元気な時点から入居をして、様々な活動を行って、支援が必要となった場合には適切なケアを受けられるというものであります。前のスライドの図は、サ高住を起点とし、健康づくりや生涯学習をしながら、地域社会との交流などを進め、必要に応じて必要なサービスを受けられるイメージが描かれています。

こちらは、実際に日本で、既に始まっております CCRC で、石川県金沢市のシェア金沢というところがございます。こちらは社会福祉法人がつくったコミュニティですが、高齢者や学生、障がい者が分け隔てなく共生するまちということでつくられております。ご覧いただいているとおり、高齢者住宅を囲むように、学生の住宅や児童施設、障がい者福祉施設、商業施設などが配置されております。ここでは学生はボランティア活動を行うこととなっており、商業施設では、高齢者も障がい者も働いています。

これは、北海道江別市につくられる「ココクルえべつ」という CCRC のイメージです。

一方、戦略会議では東部地域の自然や農業についても話題にあがっております。

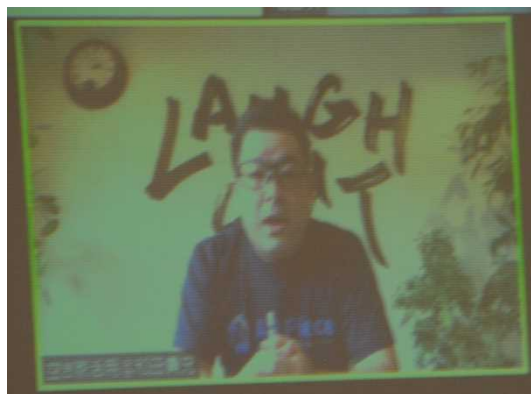
現在、全国各地に食のテーマパークがつくられております。

民間企業もこのような食のテーマパークに力を入れており、これは、小牧市に工場のあるカゴメさんが長野県に造った「野菜生活 Farm」でございます。コンセプトは「農業、工業、観光が一体化した体験型『野菜のテーマパーク』」ということで、そこで農業や食、地域の魅力も体験できるというパークであります。ファームハウスの中には、体験教室やレストラン、ショップなどがあります。みらいファームでは、様々な農業体験ができるようになっております。ファクトリーとミュージアムは、工場見学やプロジェクトマッピングを使ったイベントが体験できるという施設です。

まとめますと、東部地域にスマートシティをベースとして、人と人が触れ合う、あるいは高齢者が安心して暮らせる CCRC のようなゾーンを設け、一方で農業活性化と観光を促すようなファームをつくり、地域の活性化を図るとするのが私の提案でございます。

#### 【和田委員】

みなさま、はじめまして。空き家活用株式会社の和田と申します。唯一民間企業人ということであります。私は東京都と大阪府を行ったり来たりしております。簡単に自己紹介をさせていただきますと、空き家活用株式会社ということで、わかりやすい名前になっており、みなさま、ピンときていただけたらと思いますが、日本の空き家問題を解決していこうと



いうことで、いわゆるベンチャー企業として活動しております。今は空き家問題からまちづくりにつながっていくということで、地方行政、地方自治体の方とも様々なことを取り組んでいこう、官民が連携して課題を解決していこうということで活動を進めています。

そのようななかで、小牧市よりお声をかけていただき、この戦略会議に2回参加させていただいている状況です。

今まで会議のなかで、お話を進めていくなかで、すばらしいコンテンツが、この東部地域はあると感じております。

そのなかで、桃花台まつりというのは、多く方が参加して、転出した子どもたちも、その時は戻ってきている、帰ってきているということでした。このような祭りが、存在するエリアというのは、非常に少ないのではないかと思います。

地域の再生、活性化などに私も携わらせていただいているのですが、結果的にどのようなまちが成功しているか、どういうまちが前に進めているかと言いますと、地域の住民が未来のことを考えて、どういうまちにしていくか、ビジョンをみんなで共有して、官民が連携して進めていけるまちが成功しているように感じています。

そんな成功しているまちは、人がキーであり、Iターン・Uターンで住む人が増え、関係人口も増えています。全国で見れば、そんな先進事例もある状況です。

もうひとつ言われているのが、ダイバーシティという考え方です。これは外国の方もそうですが、様々なことを取り込んでいくことが重要だと思っています。やはり、これまで、地域のなかで頑張ってきたなかで、よそ者がくると毛嫌いする地域も多くあります。もちろん歴史がありますので、



誰が来てもいいということではないと思います。新しい人が外から来て、その人達と融合することで新しい未来が見えてくるということがあると思っています。

本日も 50 名ほどのご参加していただいておりますが、そんなみなさまと今度、新たに入ってくる人、関わりたいと思っている人達が、如何にダイバーシティとして融合していけるかが非常に重要であると思います。

そういったなかで、桃花台で空き家が増えていくということを前提としたときに、このスペースやエリアがどういうふうに変わっていけばよいのかを地域のみなさまと一緒にワークショップを行ったり、今日のような場で、一緒に真剣に考えていくということが必要であり、これが今年、来年だけではなく、10年後 20年後、さらには 50年後、この東部地域がどうなっていけばよいかというところを、みなさまと一緒に考えていければ明るい未来が切り開けるのではないかと思います。

委員の方が、発言されたように、農業、企業誘致、ハイウェイオアシスなど、コンテンツはたくさんあるということでもありますので、まずは自分たちが、如何にこの未来、このまちをどうしていくべきかというビジョンと一緒に考えていきたいと思っています。

ひとつのヒントとしては、如何に未来につなぐかということだと思います。今の小学生、中学生、高校生など、こども達と一緒に未来を語れるか、一緒に考えていけるか、そして大人たち、この地域の先輩方と一緒にまちづくりを取り組んでいけるかが、ここが肝だと思っています。

そのようなことができたら、明るい未来がまっていると私は思っています。

#### 【大塚委員】

中部大学の大塚でございます。

只今、学生の声という話がありましたが、私は大学で地理学を教えており、授業で学生をフィールドに連れて行ったり、あるいは地域をテーマにして卒論を書かせたりしています。そのような関係で小牧市について、学生の目を通して見えてきているものをはじめにご紹介したいと思います。

大学で地理学野外実習という授業があります。昨年は小牧市をフィールドに学生の興味関心にもとづいてテーマを設定し、グループ分けを行い、現地調査等を行いました。

学生が関心を持ったテーマとしては、ひとつは信長、小牧山城など、小牧の歴史に関係することであり、それに観光を結び付けてテーマにしたも



のがいました。あるいは交通や物流に関して、倉庫立地が小牧らしいということでテーマとした学生もいました。一方で、少子高齢化という社会問題、社会現象に対して、桃花台を中心とした東部地域が今後どうなっていくのか、住民はどのような環境のなかで実際に生活しているのかを知りたいというグループもありました。前のスクリーンの写真でご紹介させていただいているのが、東部地域を実際に見てまわっているところです。

そのなかで、東部地域には、老人福祉センターや四季の森など様々な施設があるということを見てまわりました。なかには、老人福祉センターの利用者等に話を伺っていた学生もいました。利用者の話によれば、桃花台と周辺地域と間を歩いて行き来するということでした。小牧市は、周辺市町と比べても、巡回バスが充実しているところですが、それでも充分ではないのか、歩いて移動しているということで、それはやはり大変だと感じたそうです。

桃花台と周辺の既存集落を東部地域として一体的にどうしていくかを考えると、やはり桃花台と既存集落との行き来、つまり車を使用できなくなった世代等の移動手段を、今後どう確保していくのかということがひとつの課題であると、学生の話聞いて感じました。

実は私事で申し訳ないのですが、私の父が免許返納をしなければならぬ歳となりました。父が今どうしているかというと、自分の移動のために運転手となってくれる人を5人ほど確保しています。庭木を剪定した枝等を処分するため、近場の処分場へ行く場合は、隣の人をお願いしています。先ほど5人いるとお話しましたが、そのうちの一人が私ですが、一番役に立っていないのは私です。

このような人達の支えがあり、父はなんとか生活しています。このように、地域で支えられながら、どうにか生活できているのは、父の幸せなところだと思い、また、そんな社会も結構いいなと感じています。

あともうひとつが、卒業したゼミ生で、桃花台に住んでいる学生がいましたが、地元愛が強く、桃花台から出たくないという学生でした。就職のとき、どうするかと思って注目していましたが、やはりここから10分15分にある企業に就職して自宅から通っています。この後、結婚などのタイミングでどうするのかということは、また注目していきたいと思います。

和田委員が先ほど、おっしゃられた小中学生の声を聞くということも大事ですが、ターニングポイントを直前に迎える高校生や大学生の声をもう少し聞くということも必要なのかと、大学に勤めている者として感じています。

次が肝心な話になりますが、これまで、この会議に参加させていただき、一番感じているのが、この東部地域には、自然に関すること、歴史、文化、レクリエーション、学術、農業、工業など様々な施設、資源があり、これを如何につなぎ合わせて、この東部地域の魅力として育てていくのかとい

うことが東部地域の活性化には必要と感じています。むしろそれに尽きると思います。

すでに小牧ワイナリーでは、農業と福祉の農福連携が行われていますが、このように各分野をうまくつなぎ合わせていくことを考えていくということが最も重要な点であると思います。

大きな企業を誘致していくことは、短期的にインパクトはあるのですが、これからの持続可能性を考えるに当たっては、この地域の内部にあるものを活かしながら、内発型の持続可能なまちづくりが一番重要であると考えています。

#### 【古池委員】

みなさん、こんにちは。こういうパネルディスカッションには、少し変わった者がいて、他の人たちとは違うことを発言することがあります。つまり、“刺身のつま”のようなものですが、文化の視点からお話します。

文化というのは面倒くさいものです。便利になり過ぎた近代社会において、不便なところから出てくる知恵（文化）などを調査研究しております。今では見向きもされないような手仕事の現場や農村跡集落をみてまわったりする仕事をしております。

文化には、耕すという性質のものです。今大塚委員からもお話がありましたが、地域で手塩に掛けて、自分たちの良いものを探し出して、それをどう磨くかを考えていくことが大事だと思います。

戦略会議でも申しましたが、小牧市史を読むと「1960年代に東部地域は日本のふるさであった」と記載されています。すごいなと感じました。おそらく想像すると、その頃には、豊かな田園地域といえますか、まさに日本の原風景がこの辺りには広がっていたと思います。

市史を読んでもらえばわかりますが、豊富な果物や心のふるさとが原風景、原点だったところをもう一度、思い起してみるべきだと思います。

私は瀬戸市に住んでいますが、小牧市のイメージは、近代都市の優等生です。内陸型の工業都市として発展してきたのですが、それには限界があります。より速くとか、より大きくとか、そのような暮らしに持続性があるかという、それは無理だということがはっきりしてきたわけです。

そのなかで、何が本当に地域のなかで幸せに暮らしていけるのか、ということ考えた時に、やはり自分たちにもともとあったものをもう一度再評価することが必要です。そのような資源を自分たちで手塩にかけて育て





ていくという、ある種、面倒くさい文化創造の作業を実践していくことが、そこに暮らす固有の価値を生み出すことにつながります。

今、コロナ禍ですが、ひとつ良かったことが、遠くに行けないことから、自分たちの周りにあるものを評価して楽しもうという流れが出てきたことです。こうした流れは、コロナ後も続けていくべきだと思います。災い転じてですが、ようやく足元の価値を認識し始めたのではないかと思います。

話は変わりますが、私は桃が大好きで、ふるさと納税を利用して、毎年、長野県から取り寄せているのですが、やめました。なぜ、やめたかというところ、これも戦略会議で申し上げたのですが、農村集落のなかに隠れ家的な喫茶店があるのですが、その女の子が「篠岡の桃おいしいですよ」と言ってくれたので、ここに買いに来ることにしました。

その彼女は地元の人でなくわざわざこちらに来た人らしいのですが、そういう若い人が、ここの桃や集約の価値を評価しているのです。「桃は、花がきれいですよ。見に来てください。」とも言っていたので、また見に来ようと思いますが、そのような豊かなところで暮らしてられるということ、肝心の地元の方が、どれくらい気づいておられるのかわかりませんが、私から見れば、相当、羨ましい地域だと思います。想像しててください。おいしい桃を食べて、桃の花咲く季節には、花を愛でながら一杯飲んでみたいな暮らしって、本当に贅沢だと思います。

以上、申し上げたことを総括すると、地域の保有してきた農村的価値や資源を再評価し、この場所はかつてどのような場所だったのか、そして今後どうしていくべきなのかを考えるべきです。そして、それは、農家の人達を始め、ニュータウンの人達、企業の皆さんなど、この地域でともに暮らし、働く人たちが、手を取りあって議論していくことが大事だと私は思います。

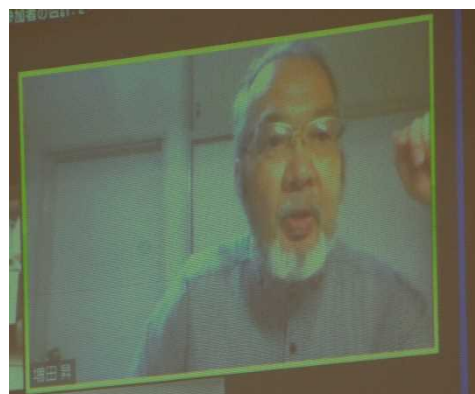
#### 【増田委員】

みなさま、こんにちは。このような発言の場を提供していただけることにお礼申し上げます。ありがとうございます。

いつも、まちづくりを考えていく時に3つくらいの考え方があると思っています。

まちづくりの視点の一つは、どんな空間、どんな風景のなかで暮らすのかということが「まちの空間形態」。そういう物理的な空間のなかで、具体的にどんな暮らしをしていけばよいのか。それが「まちの暮らし」。

それを支えるいろいろな仕組み、コミュニティの仕組みもあれば、行財政の仕組みもあります。「まちの仕組み」をどう考えていけばいいのか。



これらの視点・役割などを常に考えております。

それをつなぎ止める方法論として、プラットフォームが重要だと思っております。

このようにどんな風景のなかで暮らすのか、物理的の空間環境のなかで暮らすのかといった時に、大きく4つの視点があると思っています。

ニュータウンが持っている限界性は、ベットタウンであったわけですが、ベットタウンから脱却して、周辺地域にあります農村地域あるいは工業団地と連携して、働く場所もあり、住む場所もあるという真のまちへのどう転換していけるのかということが、東部地域全体で考えることの必要なポイントではないかと思っております。それが一点目です。

もう一点目が、「場所性や地域性を持った個性ある風景」と書いていますが、これは、ニュータウンが持っている限界として、東京にある多摩ニュータウンも、大阪にある千里ニュータウンにおいても、ある一定、普遍的、共通性に収斂してしまうということです。

そうは言っても、もう一度、この場所とか地域性を持った個性ある風景、先ほどからこの東部地域にはいろいろな特徴がありますとか、身の回りのなかで再発見できるものがありますと委員から発言がありました。そんなところから、ナンバーワンからオンリーワンへという形で、如何に個性ある風景を再発見し、それをどうつなぎ止めていくかという、そんな視点が重要になってきます。

もう一つ目は、やはり都市には中心、ハートがあって、桃花台でいうところの大規模商業施設、そこにニュータウンのハートがあり、その土地の周辺にまちの機能は集約されて、都市的な高度地域全体の心臓部になって展開している状況が重要だと思っております。

さらに、先ほど非常におもしろい話をされていましたが、地元の支え合いにより、免許返納された方の移動についての話でしたが、これから多様な移動手段をもっていることが非常に重要であります。車、電動自転車、歩きという行為も使い、さらには助け合いでのデマンド型のタクシーなど様々な移動手段というものが重要になってきます。

特に桃花台では非常に素晴らしい公園、緑地系統をもっているが、それが顕在化していません。

ポテンシャルを持っているが、本当の意味で使いこなせておらず、そこを使いこなすことを基軸に展開できないかということが1点目であります。

2点目がまちでの暮らし。和田委員からもダイバーシティということが話に出ましたが、やはり固定的な住宅供給をしてきた特に周辺に田園地域が立地したニュータウンというのは、如何に多様性を持って高齢者から子育て層、若年層、あるいは3世代居住、田園地域の世帯分離後の近居の受け皿的なものやIターンUターンする時の戻り場所としての役割となることは重要であるということです。

もうひとつが、最初に小柳委員がお話されていましたが、桃花台まつりなどコミュニティの形成に苦心され、頑張ってこられたということでした。まさにそれで、「能動的な暮らし」がもうひとつの視点です。行政からサービス受けるという、要求型ではなく、自分がホストになって、住民が住民にどうサービスしていけるか、あるいは自分が新たな暮らしや新たな起業に対して、どうチャレンジできるのかという視点が重要です。これまで受け身的な体制というのは、ニュータウンの限界性のひとつであったわけです。それに対して、「能動的な暮らし」が如何に担保できるかが重要です。ここに住んでいる人はいろんな意味でアクティブな暮らしができます。そんな暮らしがここで実現できたら、非常に良いのかなと思います。

最後に「まちの仕組み」で、ニュータウンの一番の欠点は、いろんなものが固定的であったこととあります。将来、可變的に使える場所がないのに対して、社会は常に変化しています。その変化に対して、自立的に更新していけるかが重要です。ニュータウンは非常に固定的な土地利用をしてきたことは、負の財産となっています。

それに対して、空き家や空き地が発生してきているというのは、将来に対して、非常に大きなポテンシャルとなってきます。

更新する仕組みをどう皆で共有して作っていくかが大事になってきます。それには、住民の方が、まちづくりに公平に参画する機会をたくさん持っていることが必要とあります。

小柳委員のお話を聞くと、住民の方が参画できる機会をきっちりとりましょうということでしたので、非常にすばらしい試みであると感心しました。如何に住民が参画の機会を持ってまちづくりを突き進めていくかが、「仕組みの視点」であると考えております。

最後のスライドであります。これは泉北ニュータウンで行った事例であります。泉北ニュータウンのなかに住まわれている居住者の地域コミュニティの図です。事業者や大学関係者など権利者が全て集まり、自由に議論し、自由な行動が発生しています。小さな成功事例を積み重ねていき、大きな転換に繋げていきたいと思いますというパートナーシップ型のプラットフォームの事例をお見せして、私からの提案とさせていただきます。

ありがとうございました。

#### 【山下本部長（市長）】

今、それぞれのパネリストから貴重なご発言をいただきました。

内側・外側など多様な視点でのご発言があったなと思いました。いろんな見方があるなと改めて感じました。私もいろんなご意見伺って、なるほどと思うことが、この戦略会議



を始めてから多々あります。

情報をいろいろと整理しなければならないのですが、我々は、今、内側だけ見てもいけないし、いろんな外の事例も見ないといけません。そして、何が満たされていて、何が不足しているのかを改めて考えないといけませんだろうと思います。

それから、夢物語の絵を描いてもいけないので、何ができるのかということをしつかりと考えていくことが必要と感ずます。

そんなことを考えながら、改めて東部地域を見つめ直してみると、この東部地域は非常に恵まれていると、この戦略会議での議論を通じて再認識しました。

小牧市全体を見た時に、私は市長の立場として、いろいろな課題と向き合います。例えば、都市基盤問題や水害等の問題などありますが、面的な整備という面を見た時に、これほど恵まれた地域は小牧市内にはない状況です。桃花台には、自動車道のみならず、自転車道もあれば緑道もあり、また非常に大きな公園があり、緑が多くある状況です。さらには、小学生・中学生の登下校は、歩道のみで車に遭遇することもなく、安全に通うことができる環境です。

そして周りには、緑豊かな田園風景もあり、住む環境としてはこれほど恵まれた環境はないと思います。

市内いろんなところありますが、道が細くて救急車も入れないところや、歩道が整備されていない通学路が存在します。東部地域においても、もちろんこのような状況の場所もありますが、桃花台を中心としてこの東部地域は整った都市基盤と自然豊かな風景が近接し調和している地域というのは非常に恵まれていると私は改めて感じています。

小牧市にも多くの人を訪れるわけではありますが、その多くがこの東部地域、篠岡エリアに集中しています。多くの人を訪れる施設として、市民四季の森や温水プールはこの東部地域にあります。最近できた施設として、小牧ワイナリーがあり、老人福祉センターも市内で最初に整備し、この度リニューアルしました。今後、農業公園の計画もあります。商工会議所専務理事の坪井委員からのご紹介のありました、民間事業のハイウェイオアシスの構想も商工会議所が中心に進められています。

今挙げただけでも、いろいろな地域資源が集中している地域であります。先ほど大塚委員からも発言がありましたが、歴史的な面でも魅力ある地域であります。

実は住む場所だけでなく、働く場所も多くある地域でもあります。

国は、地方創生を進めるうえで、まち・ひと・しごと創生総合戦略をすべての自治体が策定するよう言っています。まち・ひと・しごとでは、働く場所がなければ、若い人は転出してしまうので、まずは、しごとを作り

なさいというのが、地方創生の考え方とっています。

そういう意味では、この地域は尾張北部では、唯一外から働きに来る市であります。近くに働く場所もあるということです。

では、何が不足しているのかを考えると、一つは都心へのアクセスだと思っています。若い人たちが名古屋へショッピングに行きたい、遊びに行きたいと言った時に若干交通の便が悪いと思います。しかし、この点も名古屋の周辺部になると、名古屋駅付近や栄に行くのに、この東部地域よりも時間のかかる場所があります。そういう意味でも、大きな課題ではないと思います。

交通について少しお話すると、先ほど大塚委員にも触れていただきましたが、小牧市の巡回バスは、全国一の充実度と言って過言でないと思っています。さらに12月に再編を予定し、さらに利用しやすいよう改善していきたいと考えています。

そのようななかで、ニュータウンについて、同世代が同時期に一斉に入居をされ、同じように年齢を重ねられるということで、高齢化が進み、人口減少になることは宿命みたいなものであります。お子様たちが育って、大学や就職時に外に出てかれるというには、仕方がないところがあります。若い人たちが都会に一度は出てかれるのは、どの時代にもあることなので、やむを得ないことだと思っています。

そうした時に、我々が感じている課題は何か、また解決できるだろうかと考えると、一つの課題は、高齢化が進み、まち全体が衰退していくことであり、それを解決するには、出ていく人たちというよりも、新たな人々を迎えることしかないのではないかと、いろいろな意見を伺ったうえで、改めて思っています。

では、どのような受け皿があるのかと言った時に、桃花台のなかだけでは住宅地は限られています。空き家としての利活用は考えられますが、今後、増えていく予測はありますが、今現在は多くない状況であります。

空き家は、しっかりと回していくことが大事であり、そこに我々は一工夫する必要があると考えています。受け皿がなければ、新たに人は呼べず、こども達も戻ってもくることはできません。限られた土地のなかで、受け入れていく体制をつくる必要があると思います。活用されなくなった家や土地をそのままにするのではなく、しっかりと活用されるような仕組みつくることが重要であると思います。

最後に、行政として何ができるのかと言った時に、新たな施設などをつくることではなく、どういうまちに来たいのか、住みたいのかということをもう一度一緒に考えていくことだと思っています。答えはいろいろあると思いますが、子育てするには、本当にこの東部地域を含め、小牧市は非常にいいまちであり、その情報をしっかりと発信していきたいと思っています。

もう一つが市民力、地域力を高めていきたいと思っています。

小牧市では、新しい開発で区画ができると、すぐに買い手が付く状況です。しかし、桃花台ニュータウンは既存住宅でありますので、なかなか、まとまった区画での売り出しはできない状況だと見ています。どうしても、一戸ずつの売り出しになってしまいます。そうすると、やはり、若い人たちを受け入れる土壌、風土を培い、今住んでいるみなさまがウェルカムという姿勢であることを、外に発信していくことが必要です。

これまで、桃花台まつりなどで、桃花台、既存集落の融合はもとより、新旧の融合も図られていますので、このようなことをさらに伸ばしていき、外にも発信していければ、持続できるニュータウン、東部地域としていける可能性が充分にあるのではないかと、各委員の発言を聞き、改めて感じたところでもあります。

### ▶参加者（住民）による発言

【関谷さん】

今日は少し、住んでいる立場で申し上げることと、それから野口、大山地区の状況と、この東部地域はすばらしい資産の活用に対する提案、地域内の移動、住民の足ということで5点ご提案申し上げたいと思います。

まず、一つですが、昨今、ほとんどの家庭が共働きであることが常態になっています。そんな共働きの家庭が住みよい環境にしていくことが必要だと考えています。

この東部地域に住んでいただけるようにするには、今、市が行っている空き家バンクの活用は一つの方法だと思いますが、空き家バンクを創設しただけでは、活用されないと思います。そんななかで、併せて行う必要があると思うのは、終活と言いますか、人生の終わりに、空き家にしない、したら大変だという活動が必要だと思います。

次に、こどもさんが病気、親御さんの都合により保育園等に預けられないという人達のため、一時的に預けられる託児所、あるいはヘルパーの派遣事業というような形で子育てをフォローしていかないと、共働きの人達には住みよい環境になっていかないのではないかと思います。

2つ目として、野口・大山地区には、自然、文化と言ったものが豊富にあります。例えば、大山廃寺や兒の森、市が運営しています市民四季の森など、その他、今計画されています農業公園、ホテルの里もあります。本当にいろいろな文化、資源があります。

これらを住民の人達が、市民の方が散策できる企画を、我々も企画して



いきたいですが、ぜひ市にも賛同いただき、協力いただきたいと思います。とにかく、楽しく歩ける、動けるということをテーマに進めたいと思っています。

3つ目として、農業の後継者問題があると聞きます。その問題を解決するには、大規模農業を行う以外方法はないのではないかと思います。2、3反の田んぼで米づくり、少しの面積での家庭菜園での野菜づくりではなく、大規模で行っていただける仕組みをつくっていただきたい。そんなことができれば、働き場所の確保の面でもいいのではないかと思います。また、環境保全という面でも効果があると思います。

先ほどからハイウェイオアシス、スマート IC という話が出ています。特産品でいえば、名古屋コーチンは宣伝されています。しかし、世にいう6次産業化と言えるかということ、私自身は疑問に思います。名古屋コーチンを作っても、直接売っていない状況です。農業については、6次産業化をぜひ提案したいと思います。

それから資源の活用ということで、権利がどこにあるのか、わからないなかで発言いたしますので、失礼がありましたらお許してください。名古屋造形大学が移転されるということで、あと少しで学生がいなくなると思います。ぜひ、その敷地を活用していただき、技術研究開発拠点というものを考えていただきたいと思います。近くには、本日パネリストとして参加していただいております中部大学さん、名古屋経済大学さん、愛知文教大学さん、そのような大学や企業もたくさんあります、研究施設もありますので連携して行っていただきたいと思います。あまり知られていませんが、JRの研究施設も東部地域にあります。義足などを作られている松本義肢製作所もあります。このような多くの方に参加していただき、何とか研究学園エリアとして進めていただきたいと思います。

あともう一つの資産が、ピーチライナーの旧車両基地の跡地ですが、噂で聞きましたが、県は市に無償使用してほしいと言っていると聞きました。事実かどうかわかりません。その活用方法として、幼稚園・保育園の一体化、もしくは児童クラブ、あるいは、介護施設、多目的ホール、ヘルパー派遣などを含めた包括的な複合施設を、民間の活力を活用して建設していただきたいと思います。東部地域の住民サービスの一助だと思います。それとこの地域は外国人も多いことから多文化共生としても活用できたらと思います。

5点目として、地域内の移送であります。将来、高齢者等の通院や買い物など支援サービスとして活用するため、ぜひ山下市長に無人自動運転の実験フェールドに手を挙げてもらいたい。

名古屋大学の先生と話す機会があり、そのことを話してみると、先生はこう言うのです。「小牧市さんが手を挙げてくれない」の一言で終わりでした。インフラ環境のよい桃花台は実験フィールドとして、すばらしい地



域だと思しますので、第一ステップとして桃花台、第二ステップとして東部地域全体に広げていただけたらと思います。

それから、無人自動運転を活用できない人、自宅から停留所までいけない人のため、例えば NPO 法人等で対応し、移動に困らないまちにしていけたらと思います。以上であります。

#### 【余語さん】

私は桃花台の北に位置する林に住んでおります余語正義と申します。4月から区長をやらせていただいております。私は以前よりこの東部地域について考えていたことを発言させていただきたいと思っております。

この東部地域はご存じのとおり、この東部市民センターから北を見ていただくとわかるように、自然豊かな山々に囲まれており、市内でも数少ない自然河川の大山川が流れており、地域づくりにはこの自然を生かしつつ、現在ある施設を効果的に活用することが大切であると考えています。

この地域には多くの市民が利用する総合公園「市民四季の森」、温水プールがあり、他にも自然に親しむことができる「市民四季の道」、「兒の森」や歴史文化にふれることができる「篠岡古窯跡」、「大山廃寺跡」、「大草城跡」が点在していますが、これらの地域の財産が十分に生かされていないと感じます。これらを生かす方法として、それぞれの施設の充実も当然ことながら、これらの箇所を有機的に結ぶ方法を提案したいと思っております。

現在ある大山川の堤防の遊歩道を延ばし、遊歩道のネットワーク化を図ることや多くの人々がこの地域を訪れるために必要な道路の整備も必要と考えます。市内からこの地域を訪れるために国道155号、県道明知小牧線がありますが、特に県道明知小牧線は狭くて交通量が多いため、これらを補完する道路整備も欠かせないと考えます。

そして、これらの施設には、市長が言われるとおり、市外の人も含め、多くの方が訪れているわけですが、食事ができるレストランなどが設置されておらず、この地域の桃などの特産物などの魅力が伝えきれていない状況で、さらに言えば「おもてなし」ができないようになってきていると感じます。

したがって、これらの施設等の魅力を伝え、この地域にある店等を紹介するマップづくり、また桃などの特産物を利用した新たな土産物づくりも必要と考えます。また、この地域の魅力をPRし、この地域を訪れる人々





に特産物の桃を始め、農産物を提供し、この地域で採れたものを味わうことができるレストランを備えた施設があれば、多くの人に一層の感心を呼び、この地域の発展にもつながると考えます。

このようにこの地域の自然や既存の施設をできるだけ生かしつつ、この地域の魅力を高めることこそ、東部地域の地域づくりには大切であると考えます。

#### 【谷中さん】

今回のような意見を共有する場をいただきましてありがとうございます。

最初に少しでも自己紹介をさせてください。名前は、谷中香音と申します。16歳の高校2年生です。

私は中学1年生の時に、桃花台まつりのステージ出演者として、出させていただきます。その後、毎年、桃花台まつりや市民まつり、令和夏まつりなどたくさんのイベントに出演者として参加させていただいており、現在は出演グループの責任者、振付師として活動させていただいております。

本日のような場で、自分の発言をすることは、初めてであり、すごく緊張しています。

私は、この地域が本当に大好きで、何か残せたらいいなと思って、学生としていろいろなことを勉強しながら、地域発展に関することに力を入れていけたらいいなと思っています。

今回は、少子高齢化について、私なりの考えを発言させていただきたいと思います。

私は生まれも育ちも桃花台で、東部地域には今でもすごくお世話になっています。公園や自然が多く緑に恵まれて、様々な活動を行っている私にとっては非常に住みやすいです。

しかし、これほど良い地域にも「少子高齢化」という問題があります。学生の私がなぜ「少子高齢化」について目を向けたかということ、学校の授業で「少子高齢化」について学んできたからです。また父が参加している団体が主催する「少子高齢化」に関するイベントへ行った時に興味をもったからです。

「少子高齢化」の原因は、地方の方々に知られていないという点だと私は考えます。「少子高齢化」を改善するために私が考えていることは3つあります。

1つ目は「今ある緑を減らさない」。今の東部地域には、こどもが自然



の中で遊べる緑や公園がたくさんあります。この緑は子どもたちに対するメリットとして残す必要があると思います。ちなみに私は小さい頃から市民四季の森にはよく訪れます。東部地域は周りを見渡せば、緑がたくさんあることで、見渡しがとてもいい環境です。ぜひこれからも残してほしいですし、残していきたいと思います。

2つ目は「多様なイベント企画」。東部地域では、毎年たくさんのイベントが開催されているのは、私も小さい頃からよく知っています。

しかし、どのイベントも参加しているのは地域の人ばかりで、地方や県外の人々はあまり見たことがありません。このようなイベントを利用し、地方や県外の人々にも興味をもっていただくアピールが出来るとと思います。

2つ目につながるのですが、3つ目として、「ネットでの発信」。今では多く人が持っている携帯電話を利用し、地域のイベントや自慢できる「イベント企画」や「ボランティア活動」、その他、私はCaféが大好きなので、「隠れCafé」など、調べてもわからないことを積極的に発信していくことが大切なことだと思います。それらを伝えていければ地域の発展につながると思います。私はまだ16歳という歳なので、何かを動かすということは難しいのですが、若い世代の力でSNSなどのネット発信を活用し興味をもってもらうなど、今自分が出来ることで活動していきます。

改めて、緑や自然が多く、注目されるような発展した東部地域になってほしいと思っています。またこのような機会があれば、参加したいと思っています。

## ▶パネリストによるディスカッション（参加者（住民）意見後）

【和田委員】

できるだけ短く3分ほどで話をしたいと思います。ご発言いただきました地域の3名の方、本当に素晴らしいご意見をいただきました。ありがとうございました。「谷中さん、ぜひ弊社で働きませんか。」と思うほど、本当に素晴らしいご意見でした。

僕なりにご意見を伺って思ったことが、結構すぐにできることが多いと思いました。すぐに行動に移すべきではないかと思います。民間でも、官民連携でもできるし、すごく大事なことをおっしゃっていたように感じます。

病児保育であります。小牧市には数か所あるようです。もし東部エリアにないのであれば、作ればよいと思います。子どもが病気した時に預けられる場所をつくるというのは、そんなに難しいことではないと思います。作れるはず。しかし、保育士の問題はあるかと思います。

そういう活動により、子育てがしやすいって環境が作れると思いました。

関谷さんが言われていました、空き家についてですが、まさにそうで、空き家にしないということが本当に重要です。私は空き家活用という会社を営んでいますが、空き家バンクというのは、あまり活用されない実態がございます。空き家バンクの発信の限界というものがあります。行政が悪いとか、誰が悪いということではなく、つくり方の問題、発信の仕方の問題があり、最大の原因は物件があつまらないことでもあります。

私たちも空き家になる前に相談できる機会などをつくっていかないといけないと思っています。私たちがこのことを民間企業として、官民連携で未然に防ぐことに対してできることがあると思っています。これもそんなに難しくなく、取り掛かることができるとしています。

あとは名古屋造形大学の跡地について、ベンチャー企業を呼べば、面白いことができるのではないかと思います。

SNS等のネット配信でイベントをPRすること、イベントの企画については、来たくなるイベント、来たくなる場所にすることが重要です。

今はチャンス時期なのかもしれません。今都市部の人達は地方へどんどん散らばっています。二居住拠点を行おうとする人も増えており、現在600万人で、今後日本人の10%がそのようになろうとしている自覚があるわけです。言い方がよくないのですが、都市部が危険という意識があり、バックアップできる住む場所が必要となってきました。

この人たちに向け、小牧市、東部地域は安全・安心に子育てができることを、手を挙げて、発信していただくことによって、自然と居住環境の両面が揃う東部地域、住みやすい東部地域がより際立つと思います。

小牧市が、東部地域が、「都市部の受け皿になるんだ」、「受け皿になって都市部の人達とも共存していくんだ」というビジョンをもって発信していけば、本当に東部地域はいい住空間であると思いますので、人が集まってくるのではないかと思います。

地域の方がこのようなことを考えていられるのは、本当に素晴らしいことだと思います。

#### 【増田委員】

3名の方のご意見を伺いまして、非常に地域の資源やポテンシャルについて認識されていると感じました。

やはり、まちづくりには、内部からの力が重要です。

先ほど市長さんから「何が足りないですかね。」という話がありましたが、たぶんまちづくりは内発力が非常に強い力と同時に、よく言われる「よそ者が入ってくる」、あるいは「若者が入ってくる」、「非常に価値観が自由なバカ者が入ってくる」、このよそ者、若者、バカ者をつなぎ合わせていくことによって、生まれる力をどう顕在化させいくかが重要だと感じました。

この会議のなかでも、チャレンジできるとか、挑戦できるということの一つのテーマにしましょうと戦略会議での議論でありました。先ほど事務局からの概要説明にもありました。

やはり内発的な力に加え、どう人を呼び込んで、どうつなぎ合わせていくのかと、きっとそんなことができたなら、今あるポテンシャルがあつという間に顕在化するのではないかと、3名のご発言を聞いて感じさせていただきました。非常に貴重な意見でした。ありがとうございました。

#### 【小柳委員】

それぞれの意見をお聞きしまして、地元の人間として、それぞれの思いがあるなと受け止めさせていただきました。

大事なことは、桃花台、東部地域に住んでいる人間が、何ができるのかということが大切だと思います。

今現在、様々な活動をされている方もいます。そんな中、従来型に拘らず活動・交流を続けていくことが大事だと思います。

なぜかと言うと、よそから魅力を感じてもらうためには、地域内住んでいる人達が満足していなければ、よそから見てもよく見えない。そういうことを思っています。

したがって、現在いる人達で短期的に住民として何ができるのかということを考えていかなければいけないと思っています。

もうひとつは、地域内に居住していても、あるいは周辺に居住していても、居住者だけではできないことがたくさんあります。したがって、千里ニュータウン、泉北ニュータウン、高蔵寺ニュータウンにしても、事業主体となっている県や市、UR、公団公社などとも協力して進めていかなければいけないと思います。

地元としては、地域外に住んでいる人からすばらしいと思われる活動を、自信をもって進めていくことが大事だと思います。

桃ヶ丘小学校区においても地域協議会を設立したにも関わらず、今回のコロナウイルス影響により、活動に制限がでています。

そんななか、できる範囲のことでも行うこととし、9月に小学校の草取り奉仕を行うこととなりました。150名ほどが集まり実施する予定であります。活動するのは高齢者が多い状況ではありますが、このような地味な活動ではありますが、こどもたちにこのような姿を見せながら、また、外の人達にも発信しながら、魅力のあるまちだと思っただけけるよう努力をしていくことが、私たちの役目だと思っています。

## ▶ファシリテーターからの感想

これまでこのパネリストのメンバーにおいて、戦略会議として1回、2回議論を進めてまいりました。今回は住民が主役であるという観点から、こうした形でパネルディスカッションをさせていただきました。

本日までご発言いただきました住民の方のご意見が、本当に素晴らしい意見ばかりで、ひとつひとつ、すぐできるものもかなり多いのではないかと思います。

これをやっていくに当たっては、行政の力が必要なことや、逆に住民自身が進めていく活動に対して、行政が見守ることも必要だと思います。

今後、規制、条例など変えていく必要なこともあると思います。まちも住んでいる人達も、時代とともに変わっていきます。

そして、今後、若い世代が住みつづけられるまちとするため、「みんなで知恵を絞りながら協働していく」、「若い人達も含め関わりながら新しいまちを一緒に創っていく」そんなことが必要だと改めて感じさせていただきました。



## ▶山下市長（本部長）総括

住民の3名の方からご発言をいただきました。市長の立場としてお答えしなければいけない内容もあったように感じましたが、時間が差し迫っておりますので個別には申し上げませんが、私の感想を述べさせていただきます。

3名の方のご意見は、私の意見とも重なり、とても納得できるご意見がありました。

ひとつは、今ある地域資源、隠れた地域資源など多くの地域資源があるというご発言をいただきました。まさにそうだと思います。これは、活用しきれていない、発信しきれていないというところを、みなさんももっていないと感じられていると思います。これをどう活用し発信していくのかということについて、行政だけでなくお地元のみなさんと共に取り組んでいきたいと思っています。

空き家について、和田委員からも空き家になる前の取組が重要だというご発言をいただきました。空き家バンクの話もありますが、如何に人を呼び込むかということも重要だと思います。

特に桃花台ニュータウンはそうですが、限られた土地であります。転出

する人、若者が転出することは仕方がないところもあり、新しい人を呼び込むことでしか持続的に活性化していく方策はないと思います。IターンUターン等で戻ってくる人、縁あって新に来てくれる人を新たな地域住民として呼びこむためには、受け皿が必要となってきます。

その受け皿として空き家を活用していくことが必要になってくると思います。そのためには一工夫していかなければいけません。ここがひとつのポイントだと思います。空き家になる前に、今お住まいの方が、空き家にしないということを考えていただき、行政と一緒に取り組んでいただくことが重要だと思いました。

最後にご発言いただきました谷中さん、ありがとうございました。市長になって10年、いろいろなところでタウンミーティング等を行ってきましたが、16歳の高校生が人前でマイクを持って発言されることは初めてです。大変勇気が必要なことで、自分の意見を発言されたこと、本当に感銘しました。小牧市にとっても本当にありがたいことだと思います。

たくさんの委員の方からもご発言ありましたが、行政だけでは限界がありますので、住民主体で、住民がホストとなる取組を進めていかなければいけません。

イベントの企画という話もありましたが、例えば緑道を活用し、住民のみなさまが、新たに居住される方、新たに居住したいと思っている方に対してウェルカムイベントみたいものやってみても面白いと思います。「来てください。」というメッセージを発信して居住される人を迎え入れ、新しいまちづくり一緒にしていこうと、まちづくりへの参加の気運を高めていくこともいいと思います。このような住民主体で発信していく取組を今ある既存ストックを活用して行っていくことも必要であるという議論も、前2回の戦略会議でありました。

このような話が出ているなか、谷中さんからはいろいろなイベントに取り組みたいとご意見をいただき、ぜひ一緒に取組ができればと思います。

非常によい意見を、パネリストのみなさん、住民の方からいただきました。心から感謝申し上げます。

行政も課題、問題意識を高くし、専門部署も創設し、東部地域、桃花台・篠岡地区の課題を解決しようということ取組を開始しましたが、今日のお話を伺いまして、できるかできないかも「住民のみなさまと明るい未来のビジョンが共有できるかどうか」というところにかかっていると感じました。下を向いているのではなく、我々のまちを10年20年30年後に向けて、良いまちにしていけるかということについて、みんなが自分事に考え、話し合いのなかで共有できたら、自ずとそういう方向に向かっていくのではないかと思います。

多くにみなさまにご参画いただきながら、行政共々、東部地域のまちづくりを進めていきたいと思っております。今後とも、みなさま、どうぞよ

ろしくお願い致します。簡単ではありますが、まとめとさせていただきます。ありがとうございました。

## その他 会場の状況写真

